



◎本ニュースレターは、木曽三川流域におけるエコロジカル・ネットワーク形成に関連する地域の取り組み情報を発信するものです◎

コロナ禍が続いており、今も大勢が集まることは難しい状況ですが、エコネット応援団の皆さんは、色々工夫しながら活動しています。新型コロナウイルス感染症対策に配慮しながら行われている活動の結果をご報告いたします。

■2021年8月8日(日)〔一宮市尾西歴史民俗資料館・木曽川左岸(起地区、人工ワンド周辺)〕

親子で木曽川の魅力を体験しました ミズベリング138「夏休み 集まれ! 木曽川ミズベの勇者たち2021」

ミズベリングの取り組みのひとつとして、木曽川で『夏休み 集まれ! 木曽川ミズベの勇者たち』が開催されました。

親子で自然とふれあい、木曽川に対する関心や愛着を持つ心を育てることを目的としており、当日は新型コロナウイルス感染症対策(検温、消毒、マスク・マウスシールド着用)に配慮しながら行われました。

当日は晴天に恵まれ、一宮市内の小・中学生の親子9組20名のミズベの勇者が集まりました。勇者たちは、自然環境に関するクイズを交え、木曽川やワンドのことを楽しみながら学習したあと、親子で協力しながら、タモ網を使って木曽川に住む魚をとる体験や、専門家による定置網の採捕を見学しました。



▲親子共同での魚類の採捕体験を行いました

皆さんが捕まえた魚を入れたブル。どんな魚がいるかな?



皆さんがタモ網でとった魚や貝は12種類で、スゴモロコ、ギンブナ、オオクチバスなどが確認できました。最後は、歴史民俗資料館にて、木曽川の歴史と人との関わりのお話を聞くことができ、この日は、木曽川に生息する生き物や、川の歴史を学ぶ貴重な体験となりました。



▲木曽川の長さや生き物の声あてなど、スライドを見ながら木曽川やワンドの自然環境を学びました



■2021年6月12日(土)〔起地区河川敷、羽島市河川敷〕

イタセンパラを守ろう! 木曽川水系イタセンパラ保護協議会 「第13回 木曽川合同パトロール」を実施しました

今年も、「イタセンパラの密漁監視とその保護」の必要性の普及・啓発を目的に「第13回木曽川合同パトロール」が行われました。

昨年と同様に、新型コロナウイルス感染症拡散防止のため、一宮市・羽島市の両会場をオンライン中継でつなぎ実施しました。

参加者は、協議会関係者および地域の高校生など、総勢約40名で行われ、目立つオレンジ色のたすきを掛け、河川敷をパトロールしました。また、調査で採捕された魚類やイタセンパラの産卵場所となる貝の観察など、現場調査員による生物観察を実施し、保護に関する法律や密漁者をパトロールする上でのポイントやワンド保全対策の取り組み等について理解を深めました。



▲木曽川ワンドのパトロール(羽島市内)



▲木曽川ワンドの観察(一宮市側)



▲現場調査員による生物採捕の実演(羽島市側)

世界淡水魚園水族館アクア・トトぎふ(池谷館長)が、 令和3年度 野生生物保護功労者表彰、環境大臣賞を受賞しました

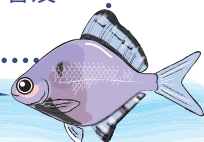
エコネットカフェなどで講演いただいた池谷委員が館長を務める『世界淡水魚園水族館アクア・トトぎふ』が、令和3年度 野生生物保護功労者表彰、環境大臣賞を受賞されました。

これは、野生生物保護に関し、特に顕著な功績をたたえる賞で、以下の3点が高く評価されました。

受賞理由

- ◎世界最大級の淡水魚水族館として、木曽三川の源流や世界の川に生息する水生生物の魚類・昆虫類・両生類・鳥類等を、生息地を再現して展示し、環境学習の場として、多くの人に親しまれている。
- ◎水族館職員が木曽川中流域で絶滅したと思われるイタセンパラを再発見したことより、保護増殖事業に取り組み、安定的な飼育技術の向上や複数施設間での親魚を交換するネットワークを構築する等、飼育・繁殖の技術向上に貢献している。
- ◎アベサンショウウオやアユモドキ等、国内外の希少種に関する調査・研究・飼育・繁殖及び普及啓発に取り組み、様々な水生生物の保護増殖事業に貢献している。

受賞おめでとうございます！



どこまでつながる木曽三川エコネット (オオソリハシギ)

木曽三川流域
おさかなコラム vol.1

じゃない

エコネット応援団では、木曽三川でみられる魚類に着目することが多いので、木曽三川から広がるネットワークの終着地点はニホンウナギの産卵地であるマリアナ諸島だと思っていました。よくよく考えてみると、木曽三川には魚類の他にも様々な生物が住んでおり、下流域を中心にたくさんの渡り鳥も訪れます。

そこで、木曽三川エコネットはどこまで繋がっていくのかなど調べてみたところ、とんでもない暫定チャンピオンに出会いました。

それは、『オオソリハシギ』という体長40cmくらいの渡り鳥で、木曽三川のご近所である藤前干潟を中心としたエリアに、春ごろに飛んでくるそうです。

茶色く“モコッ”とした体と“よーん”と伸びたクチバシが特徴のかわいい姿ですが、なんとこの鳥、繁殖地であるアラスカで産まれると、赤道をはるかに超えて、オーストラリアやニュージーランドまで飛んでいくそうです。渡りの最中には1万キロ以上の距離をほとんど休むこともなく、時には一週間以上も飛び続けるのだとか。日本へは、冬越しをした南半球からアラスカへと帰る前

に、繁殖前の栄養をつけるための休息地として立ち寄るとのことですが、鳥って生きものにはもう本当に恐れ入りました。

私たちが守ろうとしているエコネットが、北はアラスカ、南はニュージーランドまで繋がっているとは。

日ごろの活動が遠く遠くの地域の生態系にも影響していると思うと、なんだか少し、凄いのをしているような気持ちになりました。たまには興味の外の生きものについて調べてみるのも、新鮮な驚きがあつていいものですね。

次の春にでも河口へ出

かけて、クチバシが

よーんとした鳥を

見つけて世界の繋が

りを感じてみるのは

いかがでしょう。



facebookページはこちらからアクセス！

<https://www.facebook.com/kisosanseneconet/>



掲載用情報を募集しています！

事務局では、このニュースレターや facebook ページで、木曽三川流域におけるエコロジカル・ネットワーク形成に関連する地域の取り組み情報を発信しています。生物多様性の保全や生きものを活用した地域づくりなど、応援団の皆さんからの投稿・情報提供を随時募集中です。下記お問い合わせ先まで、お気軽に情報をお寄せください。(なお、紙面の都合等で取材・掲載できない場合もありますこと、予めご了承ください。)



木曽三川流域生態系ネットワーク推進協議会(事務局：国土交通省木曽川上流河川事務所)は、川とともに育まれてきた流域の自然や文化を保全・活用し、地域の魅力を向上させるとともに、人と自然・人と人との絆を深めることを目的とし、流域の市民団体・自治体・有識者・河川管理者等によって、平成26年度に設立されました。

本協議会では、木曽三川流域において、自然環境を保全・再生・創出してつなげる「生態系ネットワーク形成」に関連する活動を行う(または賛同する)、地域のさまざまな団体等に参加していただく「木曽三川流域エコネット応援団」を結成しています。応援団の皆さんの活動に関する情報共有等を図ることにより、地域の交流・協働を促進し、取り組みのさらなる発展を目指していきます。

「木曽三川流域生態系ネットワーク」ホームページ <<https://www.cbr.mlit.go.jp/kisojo/econet/index.html>>↑

木曽三川流域エコネット応援団 事務局：国土交通省 木曽川上流河川事務所 調査課 (岐阜県岐阜市忠節町5-1)

【問い合わせ先(R3事務局窓口)】 cbr-kisojo-choosa@mlit.go.jp / tel 058-251-1125 / fax 058-251-1150

